



世界と鹿児島交流情報誌「暖流」

DANRYU

発行 (公財)鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

多文化共生地域づくり事業



診察室で医師から問診を受ける様子



健康相談訓練の様子

平成26年11月8日に、外国人の方に日本の医療システムや病院での受診の流れを知ってもらうことを目的とした病院体験ツアーを行いました。社会医療法人緑泉会米盛病院のご協力のもと、8か国22名の方と病院訪問を行いました。

参加者からは「日本の病院を知って、1人で行く自信がついた。」という感想等が寄せられました。参加した外国人の方にとって日本の医療施設を身近に感じてもらう良いきっかけになったのではないかと思います。

また、平成27年1月9日に行われた鹿児島県・市主催の「桜島火山爆発総合防災訓練」に、鹿児島市国際交流財団との共催事業として、8か国・地域20名の留学生・語学ボランティアの方と初めて参加しました。

桜島が大爆発するという想定のもと、参加者は英語、中国語、韓国語等の言語別のグループに分かれ、港からフェリーに乗り込む島外避難訓練を行いました。また避難所での健康相談訓練では、語学ボランティアの皆さんの通訳を介して、鹿児島県看護協会の災害支援ナースの皆さんから血圧の測定等の健康チェックや被災状況の聞き取りを受けました。

訓練終了後感想として、参加者から「訓練がいかに大切かを知ることができた。」、また、ボランティアからは「今後に向けてもっと勉強していきたい。」等の声をいただきました。

明治維新150周年に向けた講演会～地域国際化協会認定25周年記念～



かごしま県民交流センターにおいて行われた講演会の様子

本年は、当協会が「地域国際化協会」の認定を受けてから25周年を迎えること、また、薩摩藩英国留学生在が英国に派遣されてから150年の節目の年となることを記念して、平成27年2月15日に、「明治維新150周年に向けた講演会～地域国際化協会認定25周年記念～」を、鹿児島県との共催で開催しました。

ティム・ヒッチンズ駐日本英国大使に「日英関係：19世紀と21世紀」という演題で、また原口泉鹿児島県立図書館長に「明治維新と国際交流」という演題でそれぞれ講演をしていただきました。講演会を通し、英国と鹿児島の繋がりや薩摩藩英国留学生在が日本の近代化、国際化に果たした役割等について考えを深める良い機会となったのではないかと思います。

日本語・日本理解講座



日本語講座の様子

鹿児島で生活する外国の方々が、生活に役立つ日本語、日本人の生活習慣や様式等について学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成26年5月から平成27年2月まで全60回（火曜クラス30回、木曜クラス30回）実施しました。

今年度はそれぞれの受講者が自国の文化についてのプレゼンテーションを行ったり、メトロノームを使って拍を取りながら日本語を話したりする等の練習を行いました。受講者は緊張しながらも、意欲的に日本語学習に取り組んでいたようです。

また、今年度は多文化共生地域づくり事業（医療講座・防災訓練）にも積極的に参加していただきました。この1年間の日本語学習を通して、日本語だけではなく、地域社会で必要となる習慣や生活文化についての理解も一層深めていただけたようです。

日本語サロン おしゃべりひろば



鹿児島の観光についてのフリートーキングの様子

日本語の日常会話が可能な外国の方を対象に、フリートーキングを主な内容とする「日本語サロンおしゃべりひろば」を平成26年5月から平成27年3月まで全23回（前期10回、後期13回）今年度初めて実施しました。

「おしゃべりひろば」では消防局や警察署の方、観光や介護に携わっている方、中には、日本文化（和装・空手）に精通している外国人の方等にもお越しいただき、毎回様々な分野について日本や鹿児島で生活する上で役立つ情報をテーマに話題を提供していただきました。

また、年末には実際に年賀状の書き方練習等を行い、より実用的な日本語の練習を参加者の皆さんは楽しんでいるようでした。

参加者からは「自分の日本語に自信がついた。」「もっと日本文化を勉強したい。」「様々な国の友達ができて参加することが楽しみのになった。」という声が寄せられました。

「おしゃべりひろば」をきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語を学ぶ意欲に繋がることを期待しています。

英語絵本の読み聞かせ講座



7月、始良市立中央図書館での読み聞かせの様子

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学生くらいまでの子どもを対象に国際交流員による英語絵本の読み聞かせ講座を12回実施し、そのうち3回は出張講座として始良市、知名町、薩摩川内市にて行いました。

毎月1冊は短い文章で構成された本、もう1冊は子どもたちにとってなじみ深い『おおきなぐ』や『アリとキリギリス』等の童話を主に読みました。長い物語の前には、登場する単語を大きなカードにし子どもたちと一緒に発音することで、英語のみの読み聞かせでも子どもたちは興味を持って聞くことができました。

保護者からは「子どもが興味を示すような内容で1時間があっという間に過ぎました。英語に対する楽しい気持ちがたくさん伝わったので、とても良かったです。」等の感想をいただきました。今後も、子どもたちが楽しい気持ちで英語に触れる機会となるよう努めていきたいと思います。

地域国際交流促進事業

本事業では、国際交流への関心を高めてもらう目的で、地域の外国籍の方々や国際交流団体と連携し、県内各地のイベントに当協会のブースを出展しています。今年度は鹿児島市の「MBC夏祭り」、沖永良部知名町の「ふるさと夏祭り」、指宿市の「いぶすきマルシェ」にブースを出展しました。

平成26年7月に行われたMBC夏祭りでは、鹿児島市と共に国際交流ブースを出展し、協会のパンフレット配布のほか県国際交流員や留学生、在住外国人と一緒に民族衣装の紹介と「世界の挨拶スタンプラリー」と外国の切手を使ったしおり作りを行いました。

スペイン語やポルトガル語、英語等6言語で「こんにちは」「ありがとう」と挨拶が書かれたスタンプによるラリーは、子どもたちに人気でした。また、外国の切手を使ったしおり作りは、大人も子どもも、お気に入りの切手を見つけて「どこの国の切手ですか」と留学生に聞きながら楽しんで作っていました。子どもたちに少しでも語学に興味を持ってもらう良い機会となったようです。



国際色豊かなスタッフ MBC夏祭りの様子

県国際交流員による文化紹介講座

鹿児島県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が、自国の文化や料理を紹介する講座を平成26年5月から平成27年2月にかけて、9回にわたり開催しました。始良市の講座「ハワイ料理講座」、指宿市の「国際理解講座」、日置市の「まるごと伊集院フェスティバル」等において多くの県民の方に参加いただきました。

始良市では、アメリカ・ハワイ州出身のミシェール国際交流員が、家庭料理講座と文化紹介講座を行いました。料理講座では手軽にできるアヒ・ポケ（キハダマグロサラダ）、ハウピア（ココナツプリン）、スパムむすび（おにぎり）3品を調理し、料理を食べながら文化紹介講座としてハワイ州の地理、歴史、活動、文化等の紹介がありました。

参加者の皆さんの楽しそうな様子は、この講座が国際理解の推進に役立っていることを毎回実感させてくれます。今後も、国際交流員の活動に接していただくことで、県民の皆様の世界の国際化を肌で感じていただくことを目指したいと思います。



始良市にて県国際交流員による文化紹介講座

県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国籍の方々を講師として募集し、自国の文化を県民に紹介する公募型国際理解講座を5回行いました。12月にはベネズエラ出身の男性と日本人の奥様（通訳として）に講師になっていただき、ラテンアメリカ音楽紹介講座を行いました。現在のラテンアメリカ音楽が形成されるまでの歴史的背景についての紹介の後、日本では『コーヒー・ルンバ』として知られるベネズエラの楽曲 *Moliendo Café* を、スペイン語で合唱しました。

いくら時間があっても足りないほど、講師と参加者の会話には花が咲き、参加者からは「講師の方の生の声による説明が聞けて有意義だった。」「ラテンアメリカ音楽は、愛や心の痛み等を歌った、情感溢れる音楽だと知れて良かった。」等の感想をいただきました。

普段の生活ではなかなか触れ合うことのない講師と参加者の方々が、互いの存在や文化を認識し合う機会となれるよう、今後もこの講座を行ってまいります。



講座の様子

～鹿児島で世界を語ろう～第20回外国人による日本語スピーチコンテスト～



本選出場者（前列）と審査員（後列）

平成27年1月10日の予選に、7カ国から21名の外国籍の方が参加し、その中から選ばれた5カ国10名が2週間後の1月24日に、かごしま県民交流センターの中ホールで開催した本選へ出場しました。

最優秀賞を受賞したのは、中国出身で、現在、鹿児島県立短期大学で学ばれている郭 璐瑶（カク ロヨウ）さん【タイトル：日本人と上手に付き合うためのマニュアル】。来日前にインターネットで目にしたマニュアル。しかし、実際日本人と接するとそのマニュアルに書かれてあったことは何だったのだろうと感じた。もしかしたら、日本にも同様のマニュアルが存在するのかもしれないが、どうかそのマニュアルを破って

まっさらな気持ちで中国人と付き合ってほしいと訴えました。

10名の皆さんは、日本での経験や親への感謝の気持ち等を流暢な日本語で発表し、約280名の来場者を感動させていました。今後も、多くの県民の皆さまにスピーチを通して、新たな気づきの機会を提供していければと思っています。

協力隊OBと留学生が先生事業



肝付町立岸良小学校にて

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3団体が連携して実施しているこの事業は、年間40校以上、平成7年度の事業開始以来、延べ790校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員を講師として派遣しています。学校の希望により、留学生等県内在住外国人も同行し、母国の紹介を行うこともあります。（年間派遣校の約半数）

協力隊の体験談を直接聞き、留学生と実際に交流することは、新しい発見や驚きがあり、児童・生徒からは、「私たちが今勉強できることはとても幸せなのだと思った。」、「大きくなったら、海外へボランティアに行ってみたい。」、「世界の他の国についてもっと知りたいと思っ

た。」等の感想をいただきました。国際理解教育としてだけではなく、自分の将来について考える良い機会となっているようです。

鹿児島県青少年国際協力体験事業



JICA事務所にて

今年で23回目を迎える本事業は、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3団体によって平成2年度より企画・実施しています。今年度は、平成26年7月20日から27日までの8日間、県内各地から選ばれた中高生16名をカンボジア王国に派遣しました。これまでに、延べ285名の団員を東南アジアの国々へ派遣してきた本事業では初めての、カンボジア王国への派遣となりました。

現地では、青年海外協力隊の活動視察を通して言葉や文化の違いに戸惑いながらも、努力し現地で活躍している隊員たちの姿に圧倒され、4泊5日のホームステイや現地での学校交流、世界遺産アンコールワットの観光を通して、両国の歴史や文化を学び、互いの理解を深めました。団員たちにとっては、日本について、また、今後の進路を考えるきっかけとなったようです。

第23回（平成26年度）報告書：<http://www.synapse.ne.jp/kia/international/pdf/taikenjigyo2014.pdf>

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

全羅北道の御好意と御協力のもと県民を全羅北道に派遣する本事業も、今回で6回目となり、今年は、文化団体同士の交流を進めたいとの全羅北道庁の御提案を踏まえて、鹿児島県写真協会の会長を始め13名の写真家の方々が、平成26年10月1日から10月5日に訪韓されました。

訪問中、朝市や韓屋村、馬耳山等の風景を精力的に撮影された参加者からは、「全羅北道の写真家の方が旅程に同行して下さり、懇談会でも交流できたことは大きな収穫になった。」との声がありました。全羅北道の方々のおもてなしに感激し、参加者から「故郷に帰ってきたようだ。食文化や歴史の深さに感銘を受けた。写真を通して全羅北道のすばらしさを表現することで恩返ししたい。」等感想をいただきました。

今回、全羅北道で撮影した写真は、本年1月に鹿児島で開催された写真展や、3月に全羅北道庁で開催された写真展において展示され、全羅北道の魅力を多くの方々に御覧いただく良い機会になりました。



全羅北道写真家の方と夕日の撮影

香港城市大学専上学院日本語研修

日本語を学ぶ香港城市大学専上学院の学生12名が来鹿し、平成26年7月6日から28日までの23日間、日本語学習をはじめ、7泊8日のホームステイ、浴衣着付け、茶道、日本料理作り、おぎおんさ参加などを含む研修を行いました。

おぎおんさ夏祭りでは、女神輿の方々と「ソイヤ!」のかけ声とともに、お神輿を担ぎ、鹿児島のお祭りの一体感や賑やかさを体感しました。学生たちは、「香港ではできない経験」、「疲れたけど、とても楽しかった。」と嬉しそうでした。

日本語の先生をはじめ、文化指導をしてくださった講師の先生方、大学生や留学生、ホストファミリーの方々等、この研修プログラムに関わった方々との交流を通して、学生は鹿児島の人々の温かさに感動し、ものとなったようです。

日本への知識・関心を更に深めて香港へ戻った12名の学生たちが、今後、鹿児島と香港の架け橋へとなってくれることを願っています。



浴衣着付け体験

23日間の研修は、全てが新鮮で充実した

鹿児島県青少年海外ふれあい事業

鹿児島県青少年海外ふれあい事業として、香港青少年の受入れを平成26年8月14日から21日の日程で行いました。香港の民政事務局、青年事務委員会から選抜された15名は、鹿児島県内各地の訪問、ホームステイ体験、学校訪問、鹿児島県青少年団との意見交換会等、様々な活動を行いました。

この1週間を通して、香港青少年団は、鹿児島の人々との交流で国境を超えた友情を築き、県内各地の訪問先において鹿児島の風景、空気、味に触れ、鹿児島を深く理解してくれたと思います。

また、各プログラムにおいて、香港青少年団との交流を目的に参加した鹿児島県青少年団は、英語を使用しながらの交流に手間取りながらも、相手を理解したいという積極的な気持ちと、相手を思う素直な笑顔で、友好的な交流を果たしてくれました。

この体験が彼らの将来を築く土台の一部となること、そして将来、鹿児島と香港の友好関係を支えてくれることを期待しています。



青少年交流意見交換会

命をつなぐ、国際緊急援助隊

地震、津波、台風、洪水、火山・・・世界では、大規模な自然災害が頻繁に発生し、多くの命が犠牲になっています。中でも開発途上国の多くは、経済・社会基盤が弱い弱であるため、災害が発生した際に十分な救援活動を行えないのが実情です。

日本は、地震や台風等の自然災害が多いため、これまでに豊富な経験と技術的なノウハウを蓄積してきました。こうした経験を途上国の災害救援に活かしたいとの思いから、1970年代後半に医療チームの派遣を中心とする国際緊急援助活動が始まりました。

国際緊急援助隊とは？

世界各地の災害現場で緊急援助を行います。災害発生後、被災国や国際機関からの支援要請を受けるといち早く被災地に入り、日本の代表として被災者の救助や医療活動に全力を注いでいます。



国際緊急援助隊の活動の様子

4つのチームからなる国際緊急援助隊

救助チーム…被災者の捜索、発見、救出、応急処置、安全な場所への移送が主な任務。派遣決定から24時間以内に出国。

医療チーム…自然災害による被災者の診療のほか、必要に応じて疾病の感染予防やまん延防止のための活動を行う。派遣決定から48時間以内に出国。

専門家チーム…災害に対する応急対策と復旧活動を指導するのが主な任務。

自衛隊部隊…医療・防疫等の緊急援助活動や船舶・航空機を用いた輸送活動、ヘリコプターによる空輸活動が主な任務。

鹿児島県国際交流協会内には、JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。

JICA が実施している事業や国際協力にご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624 (直通) E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

※2015年1月、JICA デスク鹿児島の JICA 国際協力推進員大内田が退任し、新たに福永が着任いたしました。

これからも、よろしくお願いいたします。



国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗・民族衣装・地図・ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書・雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク (毎週火曜12:30~13:30)
- ・ 韓国語ランチタイムトーク (毎週水曜12:00~13:00)
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ (毎週金曜12:00~13:00)

国際交流に関するご質問、JICAに関するお問合せや、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》9:00~17:00 (火曜日~日曜日)

《休館日》月曜日 (但し祝日の場合はその翌日)・年末年始 (12月29日~1月3日)



【国際交流プラザ、本誌に関する問合せ先、相談窓口】

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター 1階

TEL : 099-221-6620

FAX : 099-221-6643

E-mail : kia@po.synapse.ne.jp

ホームページ : <http://www.synapse.ne.jp/kia/>

E-mail : kia8@po.synapse.ne.jp (相談窓口専用)

そうだんまどぐちせんよう